

■滝沢市地域公共交通網形成計画の策定について

1 地域公共交通の現状

- ・人口減少、少子高齢化、モータリゼーション(マイカー依存)により、全国的に公共交通ネットワークの縮小やサービス水準が低下。このことにより公共交通空白地域も増加(移動手段がない)。
- ・特に地方圏では公共交通利用者の減少が著しい。交通事業者の経営状況が圧迫され、赤字路線を廃止せざるを得ない等、維持が困難な状況にある。
- ・地域鉄道は約8割の事業者が赤字を抱え、乗合バス交通は民間事業者の約7割、公営事業者の約9割が赤字となっており、生活路線として存続すべく路線について、赤字分の一部を国、県、市町村が負担(財政圧迫)している。
- ・乗合バスにおける利用減少の最近の理由が、燃料高騰、バス運転手不足、車両費増加など供給者側の都合によるものとなった。このままだと利用者が減るところか働く人がいなくなる。
- ・東日本大震災、東京オリンピック、道路運送法の改正等が影響し、バス運転手不足が深刻化。岩手県はバス運転手高齢化率が東北1位であり、高齢者が高齢者を輸送している状況。



このように、地方圏における交通事業者は厳しい経営状況に陥っており、地域公共交通はますます衰退し、今後必要な公共交通サービスを受けることのできない地域住民が増加する等、危機的な状況にある。→ **地方部の公共交通は崩壊寸前**

2 地域公共交通活性化再生法の一部改正

国(国土交通省)では、公共交通利用者の減少、公共交通ネットワークの縮小、サービス水準の一層の低下などの公共交通課題に加え、現在掲げる都市課題(市街地の拡散による人口密度減少、中心市街地の衰退、インフラ維持管理費の増大など)を解決する政策として「コンパクトシティ」の実現を目指し、2つの法律(地域公共交通の活性化及び再生に関する法律<公共交通関係>)、都市再生特別措置法(都市計画関係)を平成26年5月に公布、同年11月に同時改正した。

【※コンパクトシティとはいわゆる「串」(公共交通軸)と「団子」(串で結ばれた居住地域)の関係で、人口減少・少子高齢化社会の進行、地球環境等への負荷(CO2排出)、維持管理費や更新費の将来見通しを勘案して掲げた政策である。】

3 地域公共交通網形成計画(地域公共交通再編実施計画)

地域公共交通の維持、改善は、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、さらには、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果をもたらすもの

これまで民間事業者を中心に検討されてきた公共交通計画の枠組から脱却し、地域の総合行政を担う自治体を中心となって、民間交通事業者、さらには地域(住民、企業など)が三位一体となって、まちづくりと連携しながら地域戦略の一環として取り組む必要がある。

⇒ 住みやすく、活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域公共交通の再編を進める計画を作る!

地域公共交通活性化再生法の一部改正により、市町村などによる「地域公共交通網形成計画」や「地域公共交通再編実施計画」の作成などについて定められた。

■地域公共交通網形成計画

「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすもの。地域の取り組みが計画的に進められることで、限られた資源が有効に活用され、持続可能な地域公共交通網の形成が図られることが期待される。

□地域公共交通再編実施計画

地域公共交通網形成計画において、地域高校交通再編事業の概要を定めた上で、特定旅客運送事業者などの同意を得て、当該事業の実施計画である「地域公共交通再編実施計画」として策定するもの。計画が大臣認定されれば関係法令の特例や重点的な支援がある。

○滝沢市地域公共交通網形成計画」の策定



滝沢市では衰退する公共交通が息を吹き返し、地域や利用者にありがたがっていただけ、持続的に支える公共交通網を確立するために、平成28年度に「滝沢市地域公共交通網形成計画」の策定を目指します。

また、本計画は平成18年3月に策定した「滝沢村公共交通計画」の代替計画として滝沢市の公共交通に係る総合計画に位置付けます。

4 地域公共交通が便利、利用しやすくなれば・・・

地域公共交通は日々の「おでかけ」を支えるもの。便利で使いやすくなれば、利用者が増え、必然的にネットワーク網も広がり運行本数も増える。公共交通が利用しやすくなれば高齢者のおでかけの機会も増える。（※おでかけするには、イベントやそれを行う場所があることが大事。楽しいことが無ければ、或いは行きたいところが無ければ外出しない。）



おでかけすることにより、必然的に歩く。歩くことで健康になり、結果、医療福祉費が削減され、医師不足も解消される。

高齢化社会の到来により社会保障費が財政を圧迫している。医療費を削る訳にはいかないけれど、下げる努力ならできる。医療費の半分は生活習慣病であり、抑制できれば年間医療費の約半分が削減できる。健康であれば財政も助かるし、他の事業への投資もできる。

歩くことが大切、歩くのが楽しいまちをつくることで、健康へ、医療費削減へ繋がる。

魅力的な滝沢市の公共交通の実現に向けて、一緒に考えましょう！